

保田龍門

わかやま作品巡り
ガイドブック



はじめに

* 本冊子は、紀の川市出身で和歌山県を代表する芸術家 保田龍門氏が制作に関わった作品の中から、「多くの方が普段何気なく触れている」をテーマに、学校など公共機関・団体の施設に設置され、現存する代表的なもの（美術館、個人蔵を除く）を選定、紹介するものです。

* 作品によっては所有者または管理者の許諾が必要となる場合がありますので、鑑賞を希望する場合は事前に所有者または管理者にお問い合わせ下さい。



保田 龍門

やすだ りゅうもん

1891 - 1965

1891(明治24)年、那賀郡龍門村(現：紀の川市)に生まれる。本名は重右衛門、龍門と号した。粉河中学校を卒業後、一時は医師を志望するが、東京の上野で開かれていた文部省美術展覧会(略称：文展)で菱田春草の「落葉」と出会い、一度はあきらめた美術の道を再び目指そうと決め、太平洋画会研究所で絵画の指導を受け、1912(明治45)年東京美術学校西洋画科に入学する。

美術学校在学中に二科展に出品し入選、1917(大正6)年の第11回文展では「母と子」で特選を受賞する。その後、日本美術院の研究所で彫刻の勉強をはじめ、以後日本美術院展を発表の場とした。

1920(大正9)年渡米し、サンフランシスコ、ニューヨークを経て翌年にはパリに入り、ロダンの助手であったブールデルの教室で彫刻を習う。また、ヨーロッパ各地を遊学する途中、南仏のマイヨールのアトリエを訪ねた。ギリシアのアルカイックな彫刻に心酔して女性のおおらかな裸体像を追求したマイヨールの作風は、龍門が終生追い求めた母性愛のテーマに影響を与えた。

母逝去の知らせをきいて1923(大正12)年に帰国するが、欧米で3年余り研鑽を積んだ経験は、のちの自己の造形世界を築いていく際のたしかな礎となった。

帰国後は、東京での制作をやめ、郷里の和歌山に西村伊作設計のアトリエを建て活動の本拠を移し、その後大阪に転居する。

戦後は、大阪市立美術研究所、和歌山大学で後進の指導にあたり、関西の美術界に大きな影響を与えた。

絵画と彫刻をともに追求するという志を貫いた保田龍門は、1965(昭和40)年73歳で亡くなった。



『母の像』(1915)



『父の像』(1915)



『自画像』(1915)



『アンドレの首』(1922)



『少女』(1925)

(所蔵・図版提供 和歌山県立近代美術館)



『家族の肖像』(大正末～昭和初期)



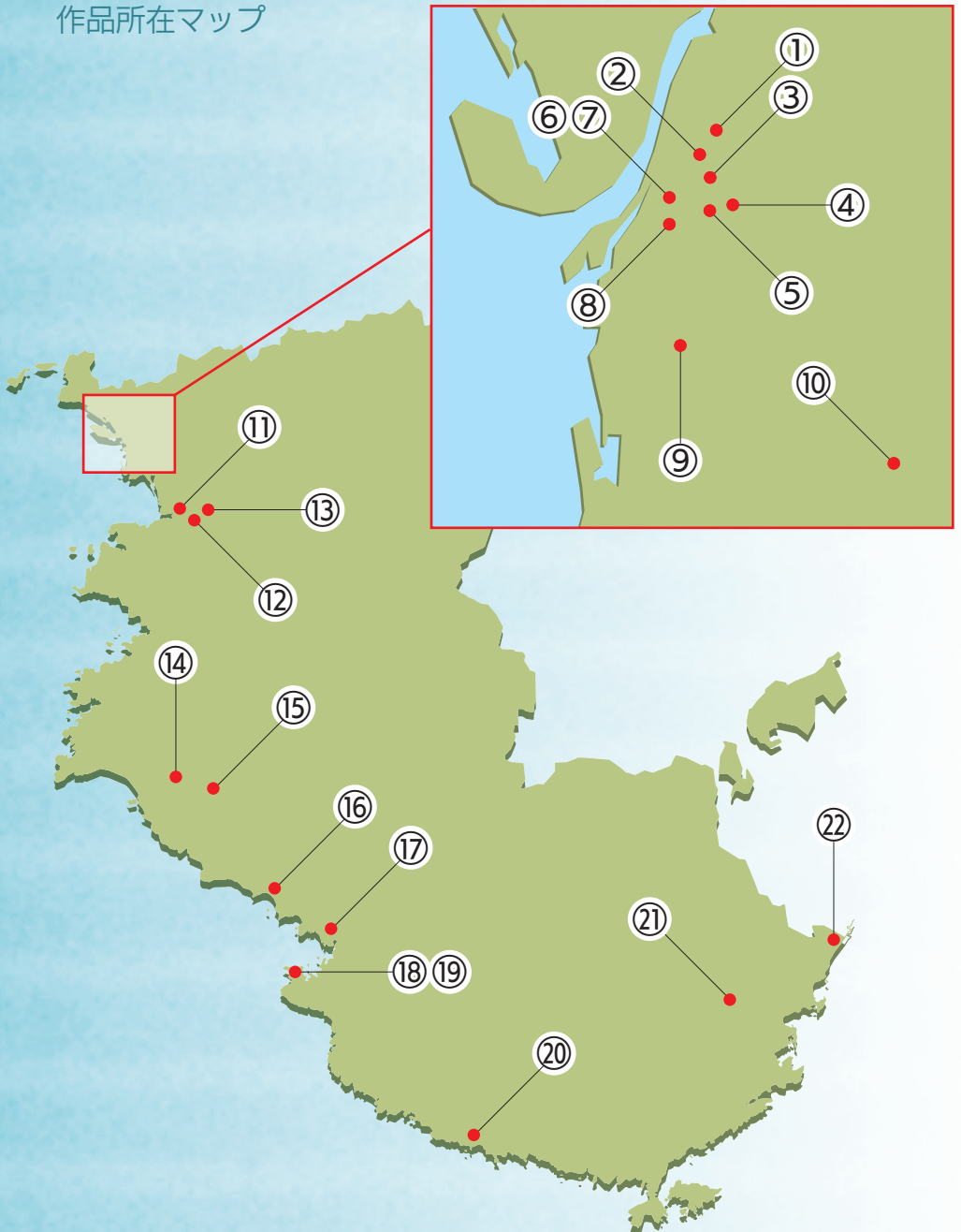
『粉河風景』(1930～1935頃)

(所蔵 紀の川市)

略 歴

- 1891 (明治24) 年 和歌山県那賀郡竜門村 (現 紀の川市) に、保田久吉、チエの間に生まれる。
本名：重右衛門
- 1905 (明治38) 年 荒見高等小学校卒業。
- 1909 (明治42) 年 粉河中学校卒業。
- 1912 (大正元) 年 東京美術学校入学。
- 1915 (大正4) 年 二科展で「自画像」など入選。
- 1917 (大正6) 年 東京美術学校卒業。
第十一回文展で「母と子」入選。
- 1918 (大正7) 年 第五回院展に出品した「肖像 (石井氏の像)」が樗牛賞を受ける。
- 1920 (大正9) 年 日本美術院彫刻部同人に推挙される。
海外留学に出る。
アメリカを皮切りに帰国まで欧米を巡る。
- 1921 (大正10) 年 パリのグラン・ショミエールでブルデルに師事。
- 1923 (大正12) 年 南仏にマイヨールを訪ねる。
母の訃報を受け帰国。
- 1924 (大正13) 年 東京 徳川頼貞邸にて「滞欧記念展覧会」を開催。
北淳子と結婚。
- 1925 (大正14) 年 郷里に帰る。
- 1935 (昭和10) 年 大阪府大阪市に転居。
- 1938 (昭和13) 年 大阪府堺市に転居。
- 1939 (昭和14) 年 和歌山県庁舎のレリーフ「丹生都比売命」、「高倉下命」を制作。
- 1946 (昭和21) 年 大阪市立美術研究所教授に就任。
- 1953 (昭和28) 年 和歌山大学教授に就任。
- 1954 (昭和29) 年 紀陽銀行本店 (和歌山市) の壁面レリーフ「春夏秋冬」完成。
- 1959 (昭和34) 年 和歌山大学教授を退官。
- 1965 (昭和40) 年 2月病没。
「南方熊楠胸像」が未完のまま残る。

作品所在マップ



詳細は各作品のページをご覧ください。

作品リスト

1. 春夏秋冬(和歌山市)
2. 垂井清右衛門氏像(和歌山市)
3. 松下夫妻寿像(和歌山市)
4. 岡崎晩香翁之像(和歌山市)
5. 陸奥宗光先生乃像(和歌山市)
6. 丹生都比賣命(和歌山市)
7. 高倉下命(和歌山市)
8. 大国主命と須勢理姫(和歌山市)
9. 岡本先生之像(和歌山市)
10. 和田静海先生像(和歌山市)
11. 会頭玉置吉之丞氏像(海南市)
12. 大讓翁像(海南市)
13. 木村翁古稀金婚寿像(海南市)
14. 湯川村長像(日高川町)
15. 森武楠翁像(日高川町)
16. 牧野環先生像(みなべ町)
17. 脇村市太郎翁像(田辺市)
18. 南方熊楠之像(白浜町)
19. 南方熊楠氏のデスマスク(白浜町)
20. 南弥右衛門翁像(すさみ町)
21. 裸形上人絵伝(那智勝浦町)
22. 杉本喜代松翁喜像(新宮市)

※()内は作品が所在する市町村



春(左上)、夏(右上)、秋(左下)、冬(右下)

1

春夏秋冬

昭和29(1954)年 セメント

【所在地】

和歌山市本町1丁目35 紀陽銀行本店

【メモ】

紀陽銀行は明治28年紀陽貯蓄銀行として設立。
 現在の本店建物は昭和29年に竣工。
 レリーフは林業(春)、漁業(夏)、柑橘(秋)、繊維(冬)と
 和歌山県の主要産業・物産を表している。





2

垂井清右衛門氏像

昭和6 (1931) 年 ブロンズ

【所在地】

和歌山市西汀丁36 和歌山商工会議所

【メモ】

モデルは和歌山市出身の実業家(1860～1944)。逸水と号す。和歌山商業会議所(現和歌山商工会議所)初代会頭。南海電鉄の設立に関わった他、和歌山電灯社長や和歌山市会議員などを歴任。



松下夫妻寿像



松下幸之助とその妻むめのレリーフで、もともと和歌山市立児童女性会館に展示されていた。児童女性会館は、松下幸之助の寄付を受け、1963（昭和38）年に市制70周年を記念して建設された。

Reliefs of Konomichi Matsushita and his wife Mumeo, which were originally exhibited at the Wakayama City Children's and Women's Hall. The Hall was built in 1963 based on an endowment from Konomichi Matsushita, to commemorate the 70th anniversary of the municipality of Wakayama City.

3

松下夫妻寿像

昭和39（1964）年 ブロンズレリーフ

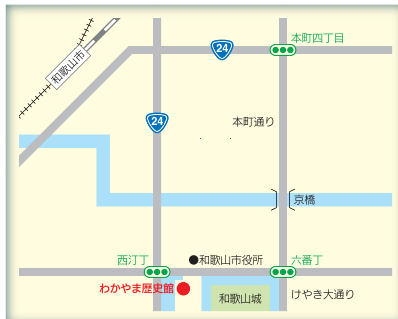
【所在地】

和歌山市一番丁 わかやま歴史館

【メモ】

モデルは松下幸之助（1894～1989）とむめの（1896～1993）夫人。

和歌山市出身の幸之助氏は松下電器産業（現パナソニック）を創立した他、PHP研究所や松下政経塾などを設立。





4

岡崎晩香翁之像

昭和3 (1928) 年 ブロンズ

【所在地】

和歌山市南材木丁3丁目

【メモ】

モデルは和歌山市出身の政治家・実業家、岡崎邦輔(1854～1936)。晩香と号す。陸奥宗光の後を受けて衆議院議員に当選。農林大臣、貴族院議員を歴任。実業家としては京阪電気鉄道、大同電力社長などを歴任。





5

陸奥宗光先生乃像

昭和45(1970)年 ブロンズ

【所在地】

和歌山市岡山丁 岡公園

【メモ】

モデルは和歌山市出身の政治家(1844~1897)。日本の近代化に辣腕を振るい、「カミソリ大臣」と呼ばれた。この像は保田龍門氏のエスキースをもとに、氏の没後、彫刻家で龍門氏の御子息である保田春彦氏によって制作された。





6

丹生都比賣命

昭和14(1939)年 セメント

【所在地】

和歌山市小松原通1丁目1 和歌山県庁本館

【メモ】

丹生都比賣命(にうつひめのみこと)は天照大神の妹君で、丹生都比賣神社(伊都郡かつらぎ町)の第一殿に祀る祭神。弘法大師空海の高野山開創にあたり、その神領を譲り渡したという伝承がある。





7

高倉下命

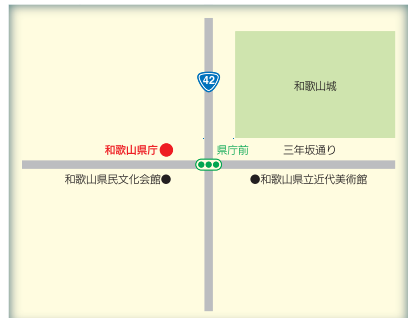
昭和14(1939)年 セメント

【所在地】

和歌山市小松原通1丁目1 和歌山県庁本館

【メモ】

高倉下命(たかくらじのみこと)は熊野地域を舞台とする「神武東征」神話の中で、天照大神の神託を受け、後の神武天皇を助けたとされる人物として古事記、日本書紀に伝えられている。





8

大国主命と須勢理姫

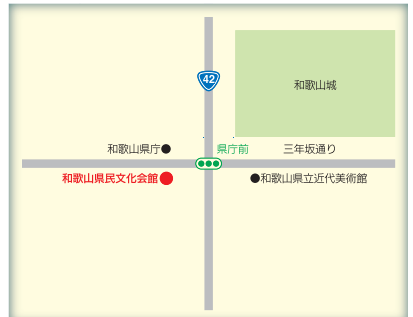
昭和45(1970)年 緞帳

【所在地】

和歌山市小松原通1 和歌山県民文化会館小ホール

【メモ】

原作は木彫「すさのおの命／大国主命とすせり姫」(和歌山県立近代美術館蔵)。紀の川改修工事の際に川底から掘り出された楠の巨木の一部を使用し、昭和17年に制作された作品を基に、県民文化会館開館にあわせて制作された。





9

岡本先生之像

昭和8 (1933) 年 ブロンズ

【所在地】

和歌山市西高松1丁目7-20
和歌山大学地域連携・生涯学習センター

【メモ】

モデルは山口県出身で和歌山高等商業学校(現 和歌山大学経済学部)初代校長の岡本一郎(1881～1948)。和歌山のほか、山口高等商業学校校長を歴任。





10

和田静海先生像

昭和27(1952)年 ブロンズ

【所在地】

和歌山市江南239 和歌山市立安原小学校

【メモ】

モデルは安原小学校初代校長。馬場小学校(安原小学校の前身校の一つ)教諭の他、明治28年から大正6年まで安原小学校の校長をつとめる。退任後も学校へ訪れるなど地域教育に携わった。





11

会頭玉置吉之丞氏像

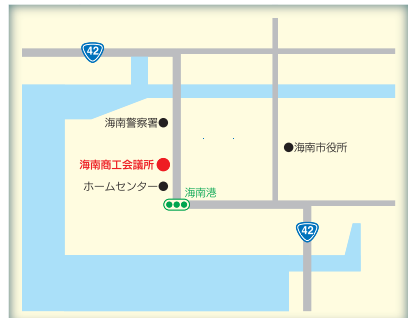
昭和27(1952)年 ブロンズ

【所在地】

海南市日方1294-18 海南商工会議所

【メモ】

モデルは海南市出身の実業家(1886~1961)。海南商工会議所初代会頭。綿ネル捺染起毛業経営等に携わった他、県織物工業組合理事長、国会議員、県議会議員などを歴任。





12

大議翁像

昭和23(1948)年 ブロンズ

【所在地】

海南市鳥居190 海南市立内海小学校

【メモ】

モデルは木村平右衛門(第6代)(1818~1893)。大議と号す。詩文、書画等文芸をよくした。晩年は医学、衛生に尽力した他、地域の教育振興のため広大な宅地を提供した。





13

木村翁古稀金婚寿像

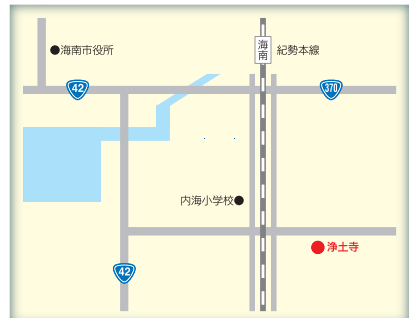
昭和24 (1949) 年 ブロンズ

【所在地】

海南市鳥居284 浄土寺 日限地藏院

【メモ】

モデルは実業家 木村平右衛門(第8代)(1881~1953)。8代目濱口吉右衛門の7男。九州電力社長、衆議院議員を歴任。地元の教育振興や昭和21年の昭和南海地震・津波の際には住民の救済に尽力。





14

湯川村長像

昭和14(1939)年 プロンズ

【所在地】

日高郡日高川町小熊2416 農村環境改善センター

【メモ】

モデルは日高川町出身の湯川熊二郎(1868~1947)。松原村(現 美浜町)、矢田村(現 日高川町)の村長をつとめた。県議会議員、日高郡会議長、日高郡農会長、同郡畜産組合長などを歴任。





15

森武楠翁像

昭和27(1952)年 プロンズ

【所在地】

日高郡日高川町丹生2133 日高川町立丹生中学校

【メモ】

モデルは日高川町出身(1883~1962)。丹生村(現 日高川町)村長、丹生村産業組合長等を歴任。私財の山林を寄付して(財)興仁会を設立し、育英事業と教育施設等の充実にあてた。





16

牧野環先生像

昭和12(1937)年 ブロンズ

【所在地】

日高郡みなべ町芝407 和歌山県立南部高校

【メモ】

モデルは和歌山県立農林学校（現南部高校）校長。新潟県出身で母は河合継之助の妹。鳥取県技官、山形県置賜農業学校を経て和歌山県立農林学校に校長兼教諭として赴任し、退職するまで約20年間その任にあたった。





17

脇村市太郎翁像

昭和38(1963)年 プロンズ

【所在地】

田辺市東陽31-1 田辺市文化交流センターたなべる

【メモ】

モデルは田辺市出身の実業家 脇村市太郎(1874~1960)。家業の菓種商を営む。田辺町会議員、田辺銀行監査役等を歴任。昭和31年脇村奨学会を設立し、地元の大学進学者に育英奨学金を支給した。田辺市名誉市民。





18

南方熊楠之像

昭和40（1965）年 ブロンズ

【所在地】

西牟婁郡白浜町3601-1 南方熊楠記念館

【メモ】

モデルは和歌山市出身で世界を代表する博物学者(1867～1941)。研究ジャンルの広さ、語学力、書いて憶えるという抜群の能力は書簡や標本、図譜等を多く残している。この像の制作中龍門氏は亡くなり、氏の遺作となった。





19

南方熊楠氏のデスマスク

昭和16(1941)年 石膏

【所在地】

西牟婁郡白浜町3601-1 南方熊楠記念館

【メモ】

熊楠氏の死去後、依頼を受けた龍門氏が南方家にかけて、一晩かかってデスマスクを取ったとされる。





20

南弥右衛門翁像

昭和30(1955)年 ブロンズ

【所在地】

西牟婁郡すさみ町江住721 すさみ町立江住小学校

【メモ】

モデルはすさみ町出身のアメリカ移民(1880~1973)。農業で成功し、「サンタマリアのレタス王」とよばれた。南加和歌山県人会会長等を歴任した他、郷里に多大な貢献をした。





21

裸形上人絵伝

昭和26(1951)年 板絵著色

【所在地】

東牟婁郡 那智勝浦町那智山8 那智山青岸渡寺

【×モ】

仁徳帝の頃(4世紀)、印度天竺の僧で青岸渡寺を開創した裸形上人が那智大滝において修行を積み、その暁に瀧壺で八寸の観音菩薩を感得した伝承をもとに制作された。





22

杉本喜代松翁喜像

昭和24(1949)年 ブロンズ

【所在地】

新宮市あけぼの4-64 木材会館

【メモ】

モデルは三重県熊野市出身(1873~1955)。新宮木材協同組合初代理事長や県木材同業組合組合長等をつとめた他、新宮市長等を歴任し、昭和南海地震の復興に尽力した。新宮市名誉市民。



参考文献

- 和歌山県立美術館『保田龍門』展図録 1969年
和歌山県立近代美術館『大正のまなざしー若き保田龍門とその時代ー』
図録 1994年
和歌山県『和歌山県史 人物』1989年
川 辺 町『川 辺 町 史』1991年
田 辺 市『田 辺 市 史』2003年
すさみ町『すさみ町誌』1978年
新 宮 市『新 宮 市 史』1972年
和歌山県立南部高等学校『南部高等学校の百年』2005年
和歌山市立安原小学校『安原』1998年
海南市立内海小学校『内海小学校 monument』2015年
和歌山商工会議所『和歌山商工会議所100年のあゆみ』1981年
(株)紀陽銀行『紀陽銀行一〇〇年史』1996年
和歌山県『和歌山県文化情報アーカイブ 紀の国の先人たち』

保田龍門氏ポートレート提供

和歌山県立近代美術館

保田龍門

わかやま作品巡り ガイドブック

平成28(2016)年3月 発行

発行者 保田龍門没後五〇年記念事業実行委員会

事務局 和歌山県那賀振興局地域振興部

撮 影 樫本宜和(有限会社フォトワークス)

印 刷 岩出印刷株式会社